

広島大学学術情報リポジトリ  
Hiroshima University Institutional Repository

Title	現代中国語における単漢字日本語借用語 : 「萌」と「燃」を例に
Author(s)	周, 碩
Citation	アジア社会文化研究 , 25 : 135 - 159
Issue Date	2024-03-31
DOI	
Self DOI	<a href="https://doi.org/10.15027/55239">10.15027/55239</a>
URL	<a href="https://doi.org/10.15027/55239">https://doi.org/10.15027/55239</a>
Right	
Relation	



## 現代中国語における単漢字日本語借用語

## —「萌」と「燃」を例に—

周 碩

## 1. はじめに

19世紀末から20世紀初期にかけて起こった、古文から白話文に転換しようとする言語近代化運動にしたがって、中国語は多くの日本語借用語を受け入れた。先行研究によると、近代の日本語借用語の種類は主に名詞、そして、二字熟語である。王（1958）、赤平（2009）や沈（2008）の先行研究によると、2000年まで量詞や接頭語以外の単漢字語はほぼないという。また、言語接触の知見から名詞は最も借用語となりやすいこと、動詞は借用しにくいこと、単漢字は名詞と見なされないためあまり借用されないことが指摘されている。しかしながら、2000年以降、単漢字日本語借用語が増え、定着しつつあるという新しい傾向が見られる。本稿はこの傾向に注目し、言語コーパス、新聞データベースおよび中国語辞典を活用し、流入した単漢字日本語借用語とその使用例を調べた。次いで、中国における単漢字日本語借用語の流入状況を把握したうえで、特定の単漢字日本語借用語である「萌」と「燃」を例に取り、その受容過程を通して、単漢字借用語の増加が現代中国語と中国語母語話者にいかなる影響を及ぼすかについて考察したい。

## (1) 日本語借用語の変化

2000年以降の日本語借用語は、19世紀末から1920年代の清末民国初期や1978年中国改革開放以降の日本語借用語と比較すると独自の特徴を持っている。まず、外来語の広がりにもっと重要なルートとしてのインターネットの普及率から、その一面をとらえることができる。19世紀末から1920年代の清末民国初期では、日本語借用語は主に洋書の和訳を通じて導入され、1980年代から2000年までは主に新聞や雑誌を通じて導入された。<sup>1</sup>しかし、

2000年以降、日本語借用語の受容は主にインターネットから流入し、スピードが速く、数が多い。筆者は修士論文で2000年以降の日本語借用語を調査し統計をとって、新しい傾向を発見した。<sup>2</sup>19世紀後半や1980年代とは異なり、2000年以降に中国に導入された日本語の借用語のほとんどは、政治、経済、科学、社会現象の分野ではない。むしろ、サブカルチャーに関連する言葉である。これらの日本語借用語は特に中国の若年層に大人気になった。インターネットとマルチメディアなどを媒介して日本のアニメ、漫画、電子ゲーム、ライトノベルなどが絶え間なく中国に入る。これらのサブカルチャー商品は若年層に吸引力と新奇性をもたらすと同時に、日本語借用語の流行を促進し、流行語や新語として広く使われている。その中で、「宅」、「控」、「萌」、「燃」、「森」、「盐」、「被」、「喪」などのような単漢字日本語借用語が挙げられる。流入した単漢字日本語借用語の数は大量とは言えないが、2000年前と比べてかなり多くなった。また、使用状況から見ると、これらの単漢字日本語借用語は受容の過程で多くの変化があり、中国語漢字の意味拡張や文法などの影響も与える。そのため、検討する価値のある内容がまだ多く存在している。さらに、以前の名詞日本語借用語と違い、これら単漢字日本語借用語の使用方法は幅広さが生まれ、意味も多様化した。

それにより、2000年以降、単漢字日本語借用語について先行研究でも言及されるようになった。しかし、「単漢字」に関連する先行研究は、実はそれ以前から取り組まれていた。

20世紀中後期、第一時期と第二時期の日本語借用語を中心にする体系的な研究が初めて出現した。統計学の観点から見ると、代表的な研究者は王立達と高名凱である。彼らは19世紀末から20世紀中期の日本語借用語を統計して分類し、翻訳方法や使用分野などの観点で日本語借用語を研究した。また、高名凱、刘正焱は近代における日本語の優位性及び中国語外来語と日本語借用語の関係を論述したことがある。

19世紀末から1950年代まで中国語の中に存在する日本語借用語を研究した王(1958)は、統計的な視点から559語の日本語借用語を分析した上で、9種類に分けた。そのうちの一つは「単漢字」と関わる12個の日本の国字である。日本の国字とは字形や意味も日本人が作った、元々中国語に存在しな

い漢字である。当時、中国語に借用された日本の国字は 12 個<sup>3</sup>ある。その中で、現在でも使われるものは「腺」、「腫」、「癌」、「碼」、「吨」の 5 文字がある。これらは確かに単漢字日本語借用語と言えるが、いずれも西洋医学の専門名詞あるいは数量詞であり、その用途は単一かつ特定の分野に限定されている。これ以外のものについて、本稿は同時代の外来語辞典を調べた。高名凱、刘正垓、史有为、麦永乾が 1984 年に編纂した『漢語外来語詞典』は、近代から 1970 年代にかけての代表的な外来語辞典である。その中で日本語借用語の語例も多く挙げられ、単漢字の「尺」、「寸」、「厘」、「瓦」、「吨」、「目」が収録された。これらは単なる西洋単語からの音訳で、長さあるいは重さの単位として使われる。その後、中国人はこれらの日本の国字を別の字形に変更したが、これは文字の意味だけを借用したことに相当する。この他、王の論文と『漢語外来語詞典』で取り上げられた語は全て二、三字語で、主に当時の中国にない概念を導入するための名詞である。

次いでに、1978 改革開放以降の状況について、赤平 (2009) は「この約 30 年で 600 編を超える論文が発表されているほどである。その勢いは中国国内にとどまらない。隣国の日本においても改革開放後の新語関連の論文がすでに 37 編以上も発表されている」と述べた。これらの論文の中には、新語としての日本語借用語関連のものも含まれる。研究対象は主に社会現象や生活に関する新名詞で、単漢字日本語借用語に関する研究には触れていない。また、2011 年 12 月に雒燕ほかの『日源新詞研究』という、日本語借用語を研究内容にした初めての専門書が中国で発行された。本書は「研究篇」と「資料篇」に分かれる。「研究篇」では当時の様々な新語の出現、流入及び語源である日本語との変化について分析した。「資料篇」では 2000 年までの日本語借用語の 74 語を集めた。この 74 語は全て二、三字の新しい名詞である。

単漢字日本語借用語が流入できない原因については、19 世紀末から 21 世紀までに、中国で興起した言語近代化運動が背景として挙げられる。この運動は、古文から白話文へ転換が目指されており、中国語複音節化の傾向が著しい。沈 (2017) も 20 世紀から中国語における二漢字語化過程で、日本語借用語は最も重要な役割を果たしていたということを指摘した。当然ながら二音節化の影響で、日本語から借用する前に、現代中国語の「萌」と「燃」

が単独で使われることはほぼなかった。

## (2)「萌」と「燃」について

言語学に関する研究を整理すると、学者たちは日本語の「萌え」を中国語流行語「萌」の語源と見なし、二者の間の意味的関連及び借用のプロセスに着目している。白解紅と王莎莎(2014)は認知意味論の視点に立って、中国語「萌」の意味変遷が如何に日本語の「萌え」によって影響されるのか、という認知プロセスを分析した。白と王によると、日本語「萌え」から中国語「萌」への借用は「概念融合」という過程を経た。中国語母語話者の異なる考え方と認知モードの偏差によって、日本語「萌え」の意味成分は完全に意味の融合空間に入っていない。故に、中日の「萌え」に対する理解の違いが生まれた。しかし、その「萌え」の意味形成の背後で「燃え」の役割を分析していないことは、白と王の研究の限界と言わざるを得ない。

黄宇雁(2012)はアンケート調査の結果に基づいて次のように述べた。日本語「萌え」は若者言葉であり、ある人や物事に対する極めて強烈な感情を表し、これらの感情には愛情、慕い、執着、興奮などが含まれている。一方、アンケート調査によって70%の中国語母語話者の被調査者が「萌」の意味を「かわいい」と考えている。黄はこの区別が存在する原因は、中日のオタク文化に対する態度の違いにあると指摘した。ただ、筆者のみどころでは今の段階で「萌」はオタク言語だけでなく、すでに一般言語になっている。そのため、意味と用法の変化を分析するとき、ただオタク文化の立場から分析するのは不十分である。

李誼、张玉铎(2014)は認知言語学の立場から、言語交流に従った日本人の「萌」に対する認知メカニズムの変化を分析した。彼らは、「もえ」という言葉が概念メタファーと概念メトニミーにより新しい意味を生成するプロセスを分析した。そして、「萌え」は「燃え」の入力錯誤であり、両者は同音のために意味も関連されたと指摘した。李と張は「萌え」と「燃え」の関係に注目し、日本語で両語は混同している現象を発見した。しかし、筆者は日本語母語話者が「入力錯誤」を起こす背後の要因を考察することが重要だと思われる。そして、「萌」と「燃」は同時に中国語に流入した後、両語にはどのような関連性が存在しているのか、語彙の意味がどのように変化するのかに

についても明確な説明が必要である。

上記の研究結果はほとんど言葉の起源に焦点を当てて、研究対象に対する特定のコーパス分析を欠いており、語彙の語源的意味から現段階まで意味の変化および品詞性、使用方法、文法化について詳細な分析と例文が欠如している。そのために、本稿は認知言語学の立場から、「萌」と「燃」はどのような関係があるのか、また中国語で「萌」と「燃」はどのように受容され、変化したのか、およびその根本的な原因を分析した。そして、「萌」と「燃」は単漢字日本語借用語として中国語に多機能を持つ、多様化した用法が存在することを示した。

### (3) 研究方法

この節は、本稿で使用する研究方法と言語資料を説明する。

中国語のコーパスに対する研究は欧米と比べると遅れを取ってきたが、さまざまな成果があった。また、「人民日报图文数据库」などの新聞データベースは長い時間の新聞記事を収録し、コンピュータで検索できる。このようなデータベースは語彙の使用頻度、定着度などの調査にとって大きな役割がある。本稿は以下の資料を使い、研究を行う。

#### ① コーパスと新聞データベース

##### ・ BCC 語料庫（以下は BCC と略す）

資料範囲は新聞、雑誌、小説などの紙媒体、インターネット、古代中国語など。150 億字がある。

##### ・ CCL 語料庫（以下は CCL と略す）

話し言葉、映画、テレビ作品、インターネット、学術論文および書き言葉コーパス。7.83 億字がある。

##### ・ 人民日报图文数据库（以下は CSCD と略す）

##### ・ 中国重要报纸全文数据库（以下は CCND と略す）

##### ・ 現代日本語書き言葉均衡コーパス中納言（以下は中納言と略す）

新聞、雑誌、書籍など出版物として刊行された現代日本語の書き言葉。ウェブの例文も収録対象とされる。2 億字がある。

本稿では、主に設計段階で「多様な言語資料をバランスよく収集」<sup>4</sup>したコーパス、つまり均衡コーパスを選択した。これらのコーパスで収録した言語資料は新時期で流入した日本語借用語のスピーチレベル<sup>5</sup>をカバーしている。また、以上のコーパスには、書籍、会議録を除いてインターネット資料も収録されている。近年言語研究を行うとき、データ量を拡大するために、言語資源として、急速に発展しているインターネット資料の利用が提唱されている。よって、本研究において以上のコーパスとデータベースを利用することは問題がないと思われる。

## ② 辞書

- ・中国社会科学院语言研究所（2005）『現代漢語辞典第5版』商务印书馆
- ・中国社会科学院语言研究所（2012）『現代漢語辞典第6版』商务印书馆
- ・中国社会科学院语言研究所（2016）『現代漢語辞典第7版』商务印书馆
- ・呉侃（2006）『中国語新語辞典』同学社
- ・汪磊（2012）『新華網絡言語詞典』商務印書館
- ・侯敏、邹煜（2006—2017）『漢語新詞語』商務印書館
- ・宋子然、杨小平（2001—2013）『漢語新詞新語年編』四川出版集团巴蜀书社
- ・北原保雄（2002）『日本語国語大辞典』（第二版）小学館
- ・小学館（2012）『デジタル大辞泉』

語彙研究で辞書の参考も非常に重要なことである。すでに辞書に収録できる語彙は主に定着度と使用頻度が高いもので、研究の価値も高い。また、本稿は2000年以降に注目するために、多くの新語辞典を選択した。なお、中国語で日本語借用語の受容プロセスを分析する前に、もともとの日本語の語義を詳しく分析しないといけない。その日本語由来を説明するとき、日本語本来の意味や例句を引用する必要があり、日本語コーパスと日本語辞書も用いた。

次に、中国語と日本語における使用状況の相違点を比較できるように、次の節はまず「萌える」と「燃える」が日本語でどのように変化するのか、ま

た新語あるいは流行語としてどのように使われているのかということを説明する。

## 2. 日本語における「萌える」と「燃える」の使用状況

新語としての「もえ」はサブカルチャーにおけるスラングで、主にアニメ・ゲーム・アイドルなどにおける、キャラクター・人物などへの強い愛着心・情熱・欲望などの気持ちをいう言葉である。今は広く使用されている段階であるが、意味についての確かな定義はまだない。そのために、本稿は例文を分析しながら説明する。

その前に、まず日本語でこの二つの「もえる」のもともとの意味を明らかにする。

### (1) 古代からの「萌える」と「燃える」の意味

日本語で漢字が借用されてから「萌え」は自動詞として使われ、『日本語国語大辞典』によると、「萌える」は「芽が出る。草木などが、芽をふく。芽ぐむ。芽ばえる」という意味を指す。「BCCWJ」から以下のような例文がある。

a. 菖蒲萌え書院さだかに影置ける。

例 a.における「萌え」とは書院で菖蒲が咲いている。「萌える」が使われる際、その主語は一般的に「植物」や「草木」のような客観的事物であり、動詞や形容動詞として使われ、用法も簡単かつ具体である。

一方、「燃える」について、『日本国語大辞典』を調べると意味は四つある：

- ①火がついて、炎が立つ。焼けて、炎がおこり立つ。燃焼する。
- ②炎のような光を放つ。陽炎（かげろう）の光や蛍の光、また、夏のきびしい陽光などの形容に用いる。《季・夏》
- ③ある感情に動かされて、気持が高ぶる。悲しみや怒り、また、感動などで胸が熱くなる。
- ④赤い色がひじょうに鮮やかに輝くたとえ。

以下は中納言の用例を加えて説明する。

b.ところが目の前のゴミの山は、燃えるゴミも燃えないゴミもいっしょくたに積まれあった。

c.それだけに、孤立感もあったろうが、使命感に燃えてもいた。

例文 b.における「燃える」は動詞として使われ、実際に火で処分できないかという意味を表す。例 c.は名詞として使われ、使命感が高まることを指す。「燃える」は使われる際に、その主語は「ゴミ」のような客観的な物事もあれば、「使命感」のような抽象的な感覚もある。

以上から見ると、意味拡張する前、日本語で「萌え」と「燃え」の意味は異なっていた。例 a.のように「萌え」は「植物」や「草木」のような客観的物事の動作を表す。それに反して、「燃え」は例 c.のようにいつも、「使命感」など深く、強い感情や心理を表す。しかし、1990年代から、日本語で「もえ」の意味拡張が始まり、大きな変化が起こった。

## (2) 「萌える」と「燃える」の新義

本節は続いて日本語で「萌える」と「燃える」の使用状況と新義を分析する。「中納言」で「萌え」について下記の用例がある。

d.客に抱かれる彼女、それはそれで萌える。

e.最初の場面のセーラー服姿もなかなか萌えましたねー

f.福山さん萌えと銀さん萌えが拮抗しております今現在、今月は攘夷オンリと土銀プチオンリがあるので、銀さんが一段高いところに座っております。

例文を分析すると例 d.とは一種の庇護欲。例 e.は作品に登場する人物の特徴や仕草に対する嗜好の発露、対象そのものではなく特定の要素・要因に対して興奮することを表す。そして、例 f.は福山さんか銀さんかにとって憧れと興奮を合わせた感情を持ち、応援する気持ちが表れている。コーパスのサンプルから見ると、最初に植物が芽ぐむことを表す文学の雅語であった「萌

える」は、今社会の中で普通に用いられる俗語となっており、いくつかの意義を派生させた。さらに、その新しい用法は本来の用法より幅広く用いられている。

次は「燃える」の説明である。中納言で下記の用例がある。

g. 遠距離恋愛をしているという、何人かの友達に「じゃあ久しぶりに会うと、結構燃えちゃったりしない？」などと尋ねられるが、そんなことはない。

h. 不倫の恋愛は、普通の独身同士の恋愛よりも、燃えるものでしょうか。

例文の中に「燃え」の意味について、例 g は「遠距離恋愛」の人は恋人との面会を憧れ、会う前は興奮している感情を指す。例 h は「不倫」ということに対する刺激感や背徳感を伴う興奮を指す。ここまでを通して、「萌える」と「燃える」は使用するとき意味の混用が見られる。

次は両語が同じ文脈で混用する例である。

i. 期待を裏切らない燃え萌えな（アニメの）最終回！

j. 谷尻萌アナ、萌え燃え敬礼。一日警察署長に「身の引き締まる思いがしました！」

例 i の「燃え萌え」はアニメの最終回を待っている期待や興奮している気持ちを表し、例 j の「萌え燃え敬礼」とは谷尻萌アナの警察服の姿に対して嗜好の発露である。

1 節で説明したように、元々、「萌え」と「燃え」は動詞であり、動詞活用の連用形である。意味は、草木の芽吹き、燃焼などを表す。しかし、新義は目的語として、自立性を持つ名詞となる。漂白された(bleaching)意味<sup>6</sup>を持つ「人や物事に対する強い愛着心・情熱・欲望などの気持ち」を表す。また、例 f. のように名詞の前後に付いて「萌え〇〇」と「〇〇萌え」の複合名詞的構造になっている語も存在する。「萌え〇〇」は「萌え」という感情を感じさせる人や物事を指し、接頭辞化される傾向が見える。一方、「〇〇萌え」はある対象に

「萌え」という感情を感じることを、あるいはそのような人を表し、接尾辞としての使用傾向が見受けられる。また、混用する時、二つの表記とも存在しているが、「萌える」という表記で使うことが多い。

ササキバラ・ゴウ (2004) は、1990 年代末頃のパソコン通信のチャットで「燃え燃えー」からの変換遊びを「萌え」の由来とする。つまり、「萌え」と「燃え」の発音が同じなので、パソコンに「もえ」を入力したら「萌え」が一番目に表示される場合があって、誤変換が発生しやすいのである。それを面白がってインターネットで広まった。<sup>7</sup>つまり、日本語母語話者は日本語を使う過程で音声優先の原則が存在しており、「もえ」という発音から語彙の意味を認知、意識する。このことは「萌える」と「燃える」が混用されている基盤だと思われる。

さらに、小学館出版社は 2013 年 10 月に「あなたの言葉を辞書に載せよう」<sup>8</sup>という調査を開催し、この活動を通して人々は「萌」に対する自分の認知を書いて投稿した。投稿は次のようになった。

- ・マンガやアニメに登場する人物の特徴（眼鏡や髪型等）や仕草に対する嗜好の発露。
- ・対象そのものではなく特定の要素・要因に対して興奮すること。
- ・狂おしいまでの庇護（ひご）欲。
- ・未完成・未成熟な存在に対して沸き起こる情念。
- ・憧れと興奮を合わせた感情を、応援する気持ちで美化したもの。
- ・背徳感を伴う心のむずがゆさ。
- ・特定の偶像に接したときに心の中で芽生える慈しみの感情。
- ・性的欲求を伴わない興奮。理由無く心を掴まれるもの。対象そのものではなく特定の要素・要因に対して興奮すること。

投稿を分析して、次のような結果を得た。「萌える」と「燃える」の意味的かつ品詞的変化は混用化にあたると考えられる。さらに、この混用には意味的漂白と脱範疇化の操作がかかっている。上記の投稿の内容で、「萌える」の基本義から派生する「未完成・未成熟」、「嗜好の発露」などの要素も見え、

「燃える」の基本義から派生する「興奮」、「狂おしい」などの要素も見える。小学館の調査は言葉の混用を証明した。

つまり、「萌える」と「燃える」は上記のような混用的意味で中国語に流入した。

### 3. 中国語における「萌」と「燃」の受容

#### (1) 意味と品詞

本節は、コーパスで収録した用例を用い、中国語における単漢字日本語借用語の受容プロセスと意味の変化を説明する。

「萌」と「燃」は同じ時期の借用語で、2010年頃インターネットを經由し、サブカルチャー用語として中国語に流入した。2010年から2014年ごろの流入初期で、中国語母語話者の使用者たちは、両語が使用される場合、まだ意味に明確な境界がなかった。以下はBCCコーパスから抽出した流入初期の例文である。

k-1.太萌了! 今天这集 (アニメ: ポケットモンスター) 好燃!

k-2.萌燃暴击! 超女冠军圈九献唱《我的逆天神器》。

上記の例文を見ると、例k-1.はアニメ鑑賞後の自分の興奮している気持ちを表した。例k-2.は歌手の舞台の姿や声などに対して興奮することを指す。初期の流入段階において、「萌」と「燃」は日本語の文脈と同様に、「人や物事に対する強い愛着心・情熱・欲望などの気持ち」に近い意味で混同されていた。なぜなら、初めてこれらの言葉に触れる若者は、サブカルチャーに対する深い理解を有しており、新しい言葉が初めて導入される段階では、人々はより慎重かつ忠実にその言葉を使用する傾向があるからである。しかし、時間の推移と使用頻度の向上に伴い、この傾向が変わった。「中国言語生活情勢報告2015」によると、2014年1月1日から12月31日までの印刷物、音声、ネットメディアでの単語や用語の使用に関する統計によれば、「萌」が登場する文章数は20286件であり、その頻度は38573回であった。同様に、2023年3月までの時点で、「燃」に関する有効な例文がコーパス内で5000

以上存在している。これに伴い、「萌」と「燃」は中国語において変化した。新聞データベース調査によると、「萌」は CSCD で初めて載せられた時点が 2014 年 11 月 24 日であり、この新聞記事で「萌」という新語は正式的に紹介された。

1.“萌”最初源自日本，本指动漫电玩的美少女角色，渐演变为形容女孩可爱。最初香港大多是电玩的报道引用“萌”，每年其曝光率皆平稳增长。

この例 1.の中に「渐演变为形容女孩可爱」という傾向が指摘され、「萌」は普及率の向上に従い、流入初期の興奮する気持ちという意味から人や物事が可愛いという意味に変化した。2015 年から 2017 年まで「萌」という新語はコーパスで例文のデータ量が大幅に増加し、ここから「萌」という言葉が中国語に定着した。『現代漢語辞典（第 7 版）』では「萌」を「稚嫩而惹人喜爱的（幼くて可愛い）」と解釈している。しかし、例文を分析すると、この意味で「萌」を解釈するのは不十分だと思われる。定着するにつれて、「萌」は主に二つの意味を表すようになった。まず、形容詞「可愛い」の意味として使われる例 m-1.と例 m-2.がある。

m-1.一只很萌很可爱的小兔子将潘睿带到了羊毛毡的世界。

m-2.目前位于下城区和西湖区的两个自助厅已投入使用，更有“超萌”的导航机器人为纳税人提供便捷的咨询服务。

例 m-1.では、「很萌」とはうさぎぬいぐるみがとてもかわいいことを言う。さらにここで「萌」と「可爱」は並列で使われ、同じ意味を表す。また、例 m-2.は超かわいいロボットという意味を表す。「かわいい」は中国語に導入されてから拡張された主な意味である。登場する新聞データは主に形容詞の意味をとっている。形容詞とは違う二つ目の意味として、中国語で「萌」は「ドキドキする」の意味で動詞として使われる例も少なくない。

n-1.我感觉你模仿起（某一动漫角色）来会萌死一大片。

n-2.书中主角象扑君于 2010 年诞生之后, 它和它的小伙伴之间有趣的故事便萌倒了微博百万用户, 微博转发动辄几千, 忠实拥趸。

動詞の意味での「萌」は、初期に中国語に導入されたときにより頻繁に使用された。例 n-1.と例 n-2.のように、主に「萌倒、萌翻、萌死」などの組み合わせが使われるようになった。例えば、例 n-1.は、主語の「你」がこのアニメのキャラクターの真似をしたら、ものすごくかわくなるという事実を指している。例 n-2.の「萌倒」とは「象扑君」の物語が温かく、かわいらしく、癒し系であることに触れている。

それでは次に、「燃」の状況を分析する。「萌」と同じように、初期は混用されたが、「燃」も使用の過程で意味変化が発生した。「燃」は今の辞典にはまだ収録されていないが、流入から今まで新聞や日常会話で多くの場面で使われ、コーパス上の例文の量もかなりある。以下、いくつかの用例を通して、「燃」の意味変化を明らかにする。データベース調査によると、「燃」が『人民日报』で初めて載せられた時点が 2016 年 4 月 7 日である。この新聞内で探した例は次のような文である。

o.“燃”——一个日本动漫中表达热血沸腾的字, 却用来形容一个“呼吸都不敢太大声”的地方, 这样戏剧性的对比, 足够让人点开这部叫做《我在故宫修文物》的纪录片。...这或许就是“燃”, 纯粹地、执着地、充满敬畏地做一件事。

例 o.では、「燃え」という表現が、熱血男子の活躍を描いた日本フィクション作品などに対して使われていたが、その後中国語で使われるときに変化したことを紹介している。ここで「燃」とは「純粋に、粘り強い、畏敬の念を抱いて行う」様子と理解されている。「萌」と同じように、現代中国語で「燃」も形容詞、動詞の二つの品詞と意味で使われている。まず、例 p-1.と例 p-2.は動詞の例であり、「興奮させる、盛り上がっている」の意味を表す。

p-1.让小学数学课堂教学燃起来。

p-2.毎毎看到民族优秀作品展示于眼前时，整个人就会燃起来。

例 p-1.は小学校の数学授業で学生たちは持続的で積極的な状態であることを指す。例 p-2.で「燃起来」とは自分の民族の成果を目にしたとき、心にエネルギーと興奮が湧き上がることを指す。動詞の意味での「燃」は、初期に中国に導入されたときより頻繁に使用されている。「興奮させる、盛り上がっている」という意味は日本語本来の意味を保持している。

次の例 q-1.と例 q-2.は形容詞の例であり、「持続的で積極的で、前向きな状態」の意味を表す。

q-1.说一部作品很燃，说明它传达了积极的人生态度。

q-2.此书最“燃”的地方,在于雅各布描述饮食控制、运动、好的睡眠能带来好身体之外,也会让头脑清醒。

例 q-1.で「作品很燃」とはこの作品は人に良い影響を与え、観た後にポジティブな姿勢で人生に立ち向かうことができるという意味を表している。例 q-2.の「此书最“燃”的地方」とはこの本で「雅各布」(ジェイコブ)が、食事管理、運動、質の良い睡眠が、いかに良い体だけでなく明晰な頭脳をもたらすか、と述べた部分が、この本で最も影響深く、積極的なところだという意味である。

「持続的で積極的で、前向きな状態」という意味は、「燃」本来の意味が中国語に導入されて新たに派生した意味である。これは報道機関のプロパガンダと関係があり、本来の意味は中立的な言葉だったが、ニュースなどでは健全で上向きなニュアンスが与えられることが多い。

以上の内容に基づき、中国語での「萌」と「燃」の受容状況をまとめる。

品詞面で、「萌」と「燃」は形容詞、動詞の用法がある。形容詞の用法はしばしば単語の意味をより抽象化し、多くの派生単語を生み出し、中国語の造語能力を大いに高める。意味面で、『現代漢語辞典(第7版)』では「萌」を「稚嫩而惹人喜爱的(幼くて可愛い)」と解釈する。これは辞書的な意味である。中国語で「萌」を使う時は「幼い」、「可愛い」の特徴を際立たせる。例

文のように実際に使われる際には、「ドキドキする」などの意味も含まれることもあるが、日本語の「萌え」と比べて「狂おしい感情」や「興奮」まで激しい気持ちではない。受容する過程で、意味の程度が浅くなった。「燃」は最初流入した時、日本語と同じように興奮や憧れる気持ちを指すが、受容する過程で「充満の念」、「持続的で積極的な状態」などの意味が生まれた。つまり、日本語で新語の「燃え」と「萌え」が混用している傾向と違い、中国語で「萌」と「燃」は受容する過程で、意味が分離した。

## (2) 文法機能の多様化

使用状況から見ると、今中国語で「萌」と「燃」は多様な文法機能を持っている。これは文法化の結果である。文法化 (grammaticalization) という用語は、20世紀初め頃のフランスの言語学者 Meillet によって提案された。研究者や研究対象によって定義が異なっている。例えば Kurylowicz(1975:52)によれば、文法化とは、非文法要素である語彙素あるいは語彙項目が文法要素に変容するプロセス、また文法的形式がより高度な文法的形式に変容するプロセスのことである。非文法要素とは語彙的な意味を持つ名詞、動詞、形容詞などの内容語であり、文法要素とは文法的な機能を果たす準接辞、助動詞、代名詞などの機能語である。Traugott (2003) の文法化定義によれば、文法化は (i) 言語における語彙、構文および文法のお互いの関係を研究する理論枠組みである。(ii) 語彙項目と語彙構造がある言語の文脈の中で文法的機能を果たすようになるという変化を指す。これらの語彙や語彙構造がいったん文法化が進むと、一層文法的な機能を果たす語に発展し続ける過程であるという。

文法化の過程で、語義の変化はメタファーの規律と繋がる。前節で述べたように、人々は「萌」と「燃」の新義を接収するとき、頭で新しい認知を形成した。生活中も無意識に特定の現象、人、物事をその意味と連想する。人々は「萌」と「燃」を利用し、物事に対する新しい認知を表す。それに従って、多くの新語と文法が生まれた。コーパスデータの収集によると、単漢字語の「萌」と「燃」は三つの文法機能を持っている。次の文を通して分析する。

### ① 述語として独自で使える

前述したように、現代中国語では二音節化の影響により、「萌」と「燃」は

単独で使われることはほぼない。使用する場合は、「萌发」、「萌生」、「燃烧」、「重燃」などの副詞を前に追加するか、または「点燃」などの補語を後に追加するなど、二音節の単語を使用する。多くの場合、その後に目的語が続く。ただし、日本語から借用した意味の影響に伴い、「萌」と「燃」が述語として単独で使用されるケースが増えている。CCND で以下の例文がある。

r.自从台北故宫的“朕知道了”纸胶带卖疯了之后，北京故宫也开始卖起了宫里的各种萌。

s.燃! 李玟蔡妍与“韩国舞王”张佑赫热舞。

また、下記の例 r. と例 s. のように「萌」と「燃」を述語として使用する場合、その後に補語を続けることもある。

t.一只在森林大火中获救的考拉深深萌到我了。

u.三一重工还有这样的机器吗？确实燃到我了。

## ②程度副詞による修飾

中国語で「萌」と「燃」は程度副詞で修飾できる。CCND で以下の例文がある。

v.这首看起来像是很萌的爱情诗，其实藏着几分“吐槽”婚姻的无奈。

w.在跌了 3 天以后，今天上证指数出现了久违的一根阳线，场面很燃，对于投资者情绪改善来讲是有帮助的。

例文の中で、「萌」と「燃」は程度副詞「很」によって修飾された。また、収集したコーパスデータには、「很、最、太」の他に、「有点、好、超、更、特别、相当」など、さまざまな程度副詞も含まれている。

## ③連体修飾語・補語として使われる

連体詞、補語としての役割を果たすことが「萌」と「燃」形容詞性質の大

きな特徴である。連体詞、補語の「萌」は「人に好かれる」という性質を持ち、愛らしいものを修飾する。そして、「燃」は「積極的、前向き」という性質を持ち、積極的なものを修飾する。CCND から以下の例文を抽出した。

- x-1. 河北省委书记周本顺喜好萌宠，竟然专门安排保姆照看宠物。
- x-2. 金博洋常调侃自己很呆萌，但在教练眼中，他绝对是那个爱动脑子的运动员。
- y-1. 与“佛系”不同，“燃系”青年敢说敢做，喜欢的就去努力争取。
- y-2. 徐克将红色经典拍燃了。

例 x-1. と例 y-1. における「萌」と「燃」は連体詞としてペットとスタイルを修飾する。例 x-2. と y-2. は補語として、人の様子あるいは動作を補足する。連体詞、補語としての意味は比較的抽象的であり、他の形態素と組み合わせで使用されることがよくある。この意味の変化は、使用範囲と使用頻度が拡大されたことによるものである。収集した新聞データには、上記の例の「萌宠、呆萌」、「燃系、燃歌」の他に、「萌妹、反差萌」、「燃文化、燃创意」なども存在している。

上記のことから、文法面で「萌」と「燃」は独立的な述語、連体詞、補語として機能し、程度副詞によって修飾されることもでき、またこのことによって、「萌」と「燃」の文法化度合いがすでに高いことがわかる。

#### 4. 考察

前節で述べたように、中国語での「萌」と「燃」の意味拡張の経路は日本語と違い、両語の意味は変化、分離した。また、使用頻度の向上に従い、現代中国語における「萌」と「燃」は多様な文法機能を持っている。本節は三つの点から、この現象の原因について考察したい。

一つ目は流入ルートの影響である。流入ルートの変化に従い、借用語の流通と受容スピードが速くなった。最初、これら借用語は一般人が翻訳したものを、直接借形することが多かった。そのため、そのまま和語を借形する過程で、単漢字語を形成した。また、これら語彙の流入はインターネットを経

由し、スピードも速い。短時間に多くの人によって使われ、ランダム性が存在する。従来、近代中国語研究で、二漢字語化あるいは二音節化は中国語発展の必要な過程と認識されてきた。沈（2017）も 20 世紀からの中国語の二漢字語化過程で、日本語借用語は最も重要な役割を果たしていたということ指摘した。ところが、2000 年以降の調査結果によると、インターネット発達の影響を受け、単漢字日本語借用語など多様化した語彙が中国語に流入した。「萌」と「燃」のような単漢字日本語借用語の流入を引き起こす誘因は、主として「言語の経済性」の原則が働くからである。「言語の経済性」の原則は、フランスの構造主義言語学者 Martinet（1972）によって提唱された。Martinet は、語彙には意味を伝達する機能があることを前提としながら、語彙を支配する原理として「経済性」があると主張した。経済性とは、言語の仕組みは人間ができるだけ労力を使わなくて済むように、効率的に出来上がっているという性質のことを言う。この性質は言葉の構成以外にも見られる人間社会の通則だと考えられる。例えば、人々が交流する際に、「話し手の意思を完全に伝えること」と「聞き手に完全に理解させること」を同時に満足させる最小限の文字数を選択する傾向がある。特に、このペースがますます速くなる現代社会において、短くて断片的な言語表現はコミュニケーションの効率を上げたり、時間を節約させたりすることができる。もとより、ネット用語や若者言葉も同じく、文の形式はほぼ省略文、短文、不規則文など簡潔な構造で組み立てられ、明らかに経済性の特徴を示している。

二つ目は中国語母語話者の認知心理である。中国語での「萌」の意味は、主に「草木が芽を出すこと」というプロトタイプの意味から拡張したものである。「植物の芽」という言葉から一番イメージされたのは、小さい、幼い、可愛い、女性化などの特性である。そのために、日本語から借用した時、「可愛い」という意味が一番受容しやすい。中国語母語話者は「萌」の漢字を見るとすぐ、幼い、小さい、女性化などのイメージが頭に浮かぶ。「燃」の漢字を見るとすぐ、「制御できない」、「持続的な過程」、「明るい」などのイメージが頭の中に浮かんでくる。この認知心理によるメタファー<sup>9</sup>は意味変化の基本的な原因だと思われる。中国語母語話者の認知心理は視覚情報により字義を獲得する。アルファベット文化圏国家の言語と違い、中国語で意味がある

一番小さい基本単位は語ではなく、漢字の字である。そのため、認知言語学の立場から中国語学を研究するとき、アルファベット文化圏の「語本位」理念はやや不適用で、研究者たちは「字本位」の理念を持つはずだ。沈 (2016) <sup>10</sup>によると、「中国語で漢字三要素と言われる“音形義”では、字形が、字音、字義と同列に扱われていること自体、視覚聴覚の重みを象徴的に物語っている。」中国母語話者はこのように字義を獲得し、それを心理的実在とした。だからこそ、「萌」と「燃」のような単漢字日本語の流入は必ず中国語母語話者の認知面に大きな影響を与える。また、語義が確実に安定な二、三字語より、単漢字語の使用はメタファーの影響を受けやすい。単漢字日本語借用語は使用頻度の高まりに従って、意味拡張の度合いが高くなった。これによると、外来語、特に単漢字日本語借用語に意味変化が起きた原因は、中国母語話者が視覚から呼び起こされた字義を重視して、認知をしているためだと考えられる。実際に、メタファーによる意味変化あるいは意味拡張は文法化の初期段階である。Hopper and Traugott (1993: 78) は、文法化の初期の段階でメタファーが働くと考え、「初期の文法化もまた、メタファーのプロセスによって強く動機づけられている」と述べた。つまり、意味拡張と文法機能の多様化の間には深い関係が存在している。

三つ目は文脈の吸収 (absorption of context) である。文脈の吸収とは、ある言語形式が長期にわたり使用される過程で、その言語が置かれている文脈で表現された意味を吸収し、徐々にそれを調整し、慣用的な意味となる現象を指す。伝統的な「文脈」には、前後関係、状況文脈、談話コミュニケーションの背景知識などが含まれる。新聞での「萌」の修飾対象は、常に「小さい動物」、「子供」、「ぬいぐるみ」であり、これは中国語の「萌え」がかわいらしさを連想させるという印象を強めている。また、「燃」は新聞などで健全で上向きのニュアンスが与えられることが多いため、褒め言葉になった。同時に、文脈の変化もメタファーと同様に「萌」と「燃」の文法機能の多様化の基礎となり、それらの機能の変化は文脈の変化から始まると言える。流入初期においては、「萌」と「燃」は独立して使用できる語彙であったが、新しい文脈では、それらはより形態素として関与し、述語や補語などの文法機能が生まれた。メタファーによる意味拡張を文法化の初期段階と言うならば、

文脈の吸収は文法化の中後期にその中の単語の意味や文法機能に直接的な影響を与えたと言える。要するに、メタファーと文脈吸収は意味拡張の手段であるだけでなく、文法機能多様化の手段でもある。

つまり、中国語における単漢字日本語借用語「萌」と「燃」の意味と文法機能が変わり、拡張する原因は三つある。流入ルートの影響、中国語母語話者の認知心理およびメタファーの影響、文脈吸収の影響である。また、語彙の意味変化と文法機能の変化は密接に関連していて、相乗効果が存在している。

## 5. おわりに

2000年以降、中国語にはそれまで見られなかった単漢字日本語借用語が多く出現するようになった。本稿では「萌」と「燃」を例にこの現象を分析した。多数の用例を分析し、次のような結果が得られた。「萌」と「燃」は単漢字日本語借用語として使用される場合、意味が変化しやすい。また、使用される際に両語は述語として単独で使うことができ、程度副詞によって修飾され、連体修飾語・補語として使われるなど多様な文法表現が存在している。

このような結果になった理由は、3つの側面が関係している。第一は、流入ルートと言語経済原則の影響である。第二は中国語母語話者の認知心理と中国語の「字本位」の特徴の影響である。第三は単語の使用過程における文脈吸収の影響である。

従来の観点から見ると、名詞は最も借用語となりやすく、動詞は借用しづらく、単漢字語は名詞と見なされないためあまり借用されなかった。しかし、「萌」と「燃」のような単漢字日本語借用語は受容する過程で、柔軟的に動詞や形容詞の品詞と意味が生まれ、様々な文法で使われている。これらの単漢字日本語借用語は、現代中国語や中国語母語話者にも大きな影響を与えている。この影響は中国語の将来の発展にどのような役割を果たしているかという問題を検討する必要があると思われる。

## 注

- <sup>1</sup> 沈国威 (1994) 『近代日中語彙交流史』笠間書院。
- <sup>2</sup> 周碩 (2021) 「中国語における日本語借用語の受容—2000年以降を中心に」  
広島大学人間社会科学研究科修士論文。
- <sup>3</sup> 12個の中に現代中国語ではもう使われなくなった漢字は「耗」、「糲」、「吋」、  
「呷」、「籽」、「哩」、「甹」7個ある。
- <sup>4</sup> 国立国語研究所における国語に関する調査研究等の実施状況について(移管  
前後の比較) (平成23年11月29日 p.1)。
- <sup>5</sup> スピーチレベルとは、人が状況に応じて語彙を使い分けることを言い、凍結  
スタイル (Frozen)、正式スタイル (Formal)、諮問スタイル (Consultive)、  
略式スタイル (Casual)、親密スタイル (Intimate) の5段階に分類されて  
いる (cf. Joos(1976))。本稿の研究対象としての単漢字日本語借用語は現在  
略式スタイル、親密スタイルと諮問スタイルで使われる語彙から正式スタイル  
に入る過程である。
- <sup>6</sup> 三宅 (2005:63) によれば、文法化には二つの異なった側面が存在する。一  
つは意味の側面で、すなわち実質的意味が抽象化、希薄化される過程である。  
この過程は意味の「漂白化」 (bleaching) とも呼ばれる。もう一つは統語  
的側面で、自立語が自立性を失って文法的機能を担う要素へと変化する過程  
である。この過程には名詞や動詞などの本来的なカテゴリーへの帰属度が希  
薄になるという点で、「脱範疇化」 (decategorization) と呼ばれる。
- <sup>7</sup> 「萌え」の語源について、「燃え燃え」語源説は一つの説に過ぎない。ネッ  
トで恐竜惑星ヒロイン「鷲沢萌」説やセーラー月面のキャラクター「土萌  
ほたる」を語源とする説も存在している。  
<https://tkusano.jp/moe> 2024年1月閲覧。
- <sup>8</sup> 小学館 .2014. デジタル大辞泉の解説—萌え [OL].  
<http://kotoba.daijisen.jp/> 2023年12月閲覧。
- <sup>9</sup> メタファーは認知言語学の概念であり、その定義は「二つの概念の類似性に  
基づき、一方の概念領域から他方の概念領域への写像」である。一般的に、  
具体的に身体的な領域の経験を基に、非物理的で抽象的な領域の経験に意味  
づけが行われる。

10 沈国威「漢字の意味とその獲得」関西大学中国文学会紀要第三十（2016年 p.16）。

## 参考文献

（日本語文献）

赤平恵里（2009）「中国語学における新語研究の現在」『慶應義塾大学藝文学会藝文研究（96）』

赤平恵里（2007）の「新語"老齡"の誕生と定着：中国語"老齡化社会"普及の要因を探って」『慶應義塾大学藝文学会藝文研究（92）』

荒川清秀（1997）『近代日中学術用語の形成と伝播—地理学用語を中心に』白帝社

荒川清秀（1998）「日本漢語の中国語への流入」『日本語学 17号(6)』 p.39～46

汪婷（2010）「中国における外来語の受容—「外来文化の受容と変容」研究の一環として」『鈴鹿国際大学紀要 Campana Vol.16』 p.101～116

大堀壽夫（2005）日本語の文化化研究にあたって—概観と理論的課題』『日本語の研究第1巻3号』

呉悦、筒井紀美（2003）「中国語新語の中の日本語語彙についての研究」『日中言語対照研究論集（5）』 p.147—169

ササキバラ・ゴウ（2004）『<美少女>の現代史—「萌え」とキャラクター』講談社現代新書 p.20

真田信治（編）（2012）『社会言語学の展望』くろしお出版社

実藤恵秀（1978）「日本・中国の語彙交流（アジアの中の日本語<特集>）」『言語生活（通号 322）』筑摩書房 p.48—51

朱京偉（2008）『清議報』に見える日本語からの借用語』『漢字文化圏諸言語の近代語彙の形成—創出と共有』関西大学出版部

鈴木修次（1981）『日本漢語と中国—漢字文化圏の近代化』岩波新書

沈国威（1994）『近代日中語彙交流史』笠間書院

沈国威（2008）『漢字文化圏諸言語の近代語彙の形成—創出と共有』関西大学出版部

- 自由国民社（2007）『現代用語の基礎知識』自由国民社
- 千葉謙悟（2010）『中国語における東西言語文化交流—近代翻訳語の創造と伝播』三省堂
- 陳力衛（2005）「和製漢語の形成」『国文学—解釈と鑑賞 70(1)』至文堂 p.38～46
- 陳力衛（2012）「和製漢語と中国語」『比較日本学教育研究センター研究年報 Vol.8』p.217～222
- 張惠蘭（2022）「グローバル化時代における台湾日本語教育の現状と課題」『ふくい地域経済研究第 30 号』p.61～72
- 西川盛雄（1998）「接頭辞形成と文法化現象」『熊本大学教育学部紀要人文科学第 47 号』p.87～99
- 福嶋亮大・張或髪（2017）『辺境の思想—日本と香港から考える』岩波書店
- 彭広陸（2004）「中国語の新語辞典に見られる日本語語彙の受容」『日本語研究第 14 期』
- 町田健（2004）『ソシユールと言語学—コトバはなぜ通じるのか』講談社 p.169
- 南博（1977）「マスコミと日本語」『岩波講座・日本語第二巻・言語生活 3』岩波書店
- 宮島達夫（2008）「「テレビ」と「電視」—「電視」は和製漢語か」『漢字文化圏諸言語の近代語彙の形成—創出と共有』関西大学出版部
- 村瀬ひろみ（2006）「日本の商業アニメにおける女性像の変遷と「萌え」文化—新しいジェンダーを求めて」『Gender and Sexuality : Journal of the Center for Gender Studies, ICU 1』p.77-92
- 森岡健二（1982）「語彙の歴史の中の現代語彙」『講座日本語学 4 語彙史』明治書院

（中国語文献）

- 白解红，王莎莎（2014）《汉语网络流行语“萌”语义演变及认知机制探析》湖北大学学报(哲学社会科学版)
- 陈建生（2008）《认知词汇学概论》复旦大学出版社
- 董秀芳（2006）《词汇化与语法化的联系与区别:以汉语史中的一些词汇化为例》

- 《21 世纪的中国语言学(二)》商务印书馆
- 郭伏良 (2002) 《从人民网日本版看当代汉语中的日语借词》汉语学习
- 顾江萍 (2007) 《汉语中日语借词研究》厦门大学博士论文
- 国家语言资源监测与研究中心《中国语言生活状况报告 (2000-2016)》商务印书馆
- 黄宇雁 (2012) 《“萌”与“萌え”——试析中国流行文化对日本文化的受容》浙江外国语学院学报
- 李谊, 张玉铎 (2014) 《网络视阈下“萌”的受容轨迹及语义演变的探讨》东北亚外语研究
- 李运博 (2006) 《中国近代词汇的交流—梁启超的作用与影响》南开大学出版社
- 劉正埏, 高明凯, 麦永乾, 史有為等編 (1984) 《漢語外来詞詞典》上海辭書出版社
- 譙燕, 徐一平, 施建军編 (2011) 《日源新詞研究》学苑出版社
- 沈国威 (2017) 「我们为什么需要二字词?: 语言接触与汉语的近代演化序说」『東アジア文化交渉研究』p.101~118
- 史有為 (2004) 《外来詞異文化的使者》商務印書館
- 史有為 (2000) 《漢語外来詞》商務印書館
- 桑哲 (2011) 《新中国的語言規劃及未来工作展望》語文研究
- 王力 (1993) 《漢語詞彙史》商務印書館
- 王立達 (1958) 《现代汉语中从日语借来词语》中国語文
- 王寅, 严辰松 (2005) 《语法化的特征、动因和机制—认知语言学视野中的语法化研究》解放军外国语学院学报
- 邹玉華, 劉哲, 马叔駿 (2011) 《漢語外来詞規範原則与方法》漢字文化

(英語文獻)

- Hopper, Paul J. and Elizabeth Closs Traugott. Grammaticalization. 2nd ed. Cambridge: CUP, 2003.
- Hopper, P.J. & E.C. Traugott. Grammaticalization. Cambridge: Cambridge University Press, 1993.
- Brinton, L. & E.C. Traugott. Lexicalization and Language Change. Cambridge: Cambridge University Press, 2005.

Joos, Martin The Five Clocks: A Linguistic Excursion Into the Five Styles of English Usage. Harcourt: San Diego, 1967.

(コーパスとデータベース)

BCC 语料库

<http://bcc.blcu.edu.cn/zh/search>

CCL 语料库

[http://ccl.pku.edu.cn:8080/ccl\\_corpus/index.jsp](http://ccl.pku.edu.cn:8080/ccl_corpus/index.jsp)

人民日报图文数据库

[DB/OL]. <http://data.people.com.cn/rmrb/20181223/1?code=2>,

中国重要报纸全文数据库

<HTTPS://KNS.CNKI.NET/KNS8?DBCODE=CCND>

現代日本語書き言葉均衡コーパス中納言 (日本語)

<https://chunagon.ninjal.ac.jp>